

1.1.4 アンカー体グラウトのブリージングについて

図 1.4.1 のように孔内水が形成されている状態で、孔底に達しない位置からグラウトした場合、写真 1.4.1 のようなブリージングをもたらす可能性がある。すなわち、急激なグラウトにより、孔底付近に孔内水を残したままセメントミルクがリターンし、養生期間中に徐々にブリージングすることが考えられる。

アンカー体位置でこのような状態が形成されれば致命的であり、あらかじめグラウトホースの長さを計測しておき、孔底に達したか否かを確認できるようにしておく等の対策が必要である。

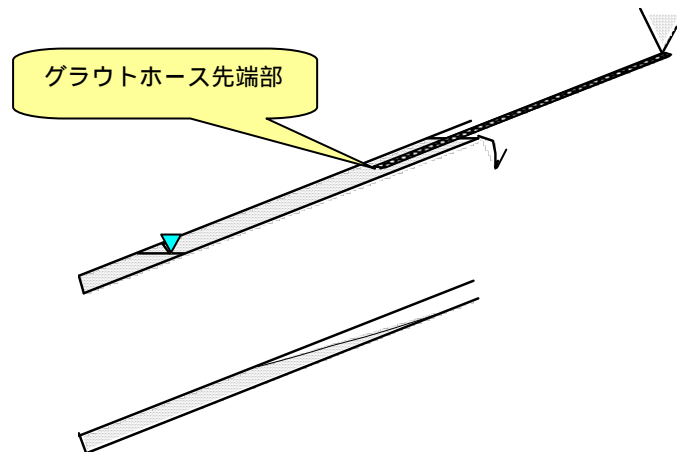


図 1.4.1 グラウト実験
(上：グラウト直後，下：養生後)



写真 1.4.1 ブリージング状況